

## 上手に植えれば 被害は防げる

ナス、トマトなんかの果菜類、定植後、いかに早く活着させて根を張らせるかがモグラ対策のポイント。モグラの穴って太くても5センチ。定植後すぐに根っこが植穴の外にすくすく根を出せば、株の真下にモグラが穴をあけても苗は枯れない。モグラに苗を枯らされたっていう人は植え方がヘタなだけ。

ホームセンターに行ったら堆肥と苦土石灰と肥料とポリマルチと元氣そうで青々とした苗を選んで買ってきて、その日に畝たてしてマルチかけて堆肥も石灰も元肥も植穴に入れて一気に植えちゃうなんてダメ？そんな植え方するから、根っこがポットの鉢土から外へ出ないでしばらくじっとしちゃう。

真下にトンネル出来たらたちまち根っこは宙ぶらりん。あのね、石灰と堆肥は定植の2週間前には畑に入れて土と混和。1週間前には温室育ちの苗を庭先において寒さに慣らし、元肥入れて畝を立ててマルチして土を温めておく。

そして寒さに慣れた苗を温かい土のお布団に植えてあげる。そうすると苗が、「ああ、春がきたあ〜」ってぐんぐん根を伸ばし始める。

これ、一番のモグラ対策。

## 畦の斜面に 刈った草残さない

畦をモグラのトンネルが走って大雨の後、斜面が崩れちゃったなんて人もいる。刈払い機使いなれた人って無意識のうちに刈った草、体の左側に運んでる。刈られた草の山が刈幅単位で一直線に積み上げられてるのをよく見かけるでしょ。あの枯草の下にミズが寄ってくる。当然モグラも寄ってくる。

2段、3段に刈払うような高さのある畦は刈って1〜2日後、草がある程度軽くなつてからでも熊手かなんかで一番下まで掻き下ろしておこう。

## 上手に捕獲、殺さず放つ

ホームセンターなんかには、モグラの撃退機とか忌避材とか風車が売られてる。いずれも効果がないことは試験済み。

ブルーベリー、アスパラガス、ガーベラといった永年作物はトンネルが累積すつからちよつと厄介。そういう時は手取り早く捕獲しちゃう。コツはモグラが毎日通うトンネルと通わないトンネルをきちんと見分けて、通うトンネルに捕獲筒を仕掛けること。

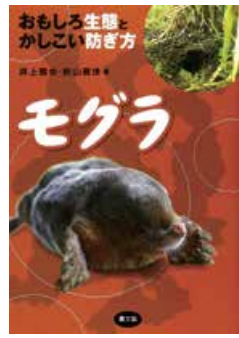
まず、6つ切りしたコンパネ(60センチ×45センチ)を用意。クワで地面をしっかりと均してすき間のできないようにコンパネを置く。コンパネの下にトンネルができたなら、クワでそのトンネルを均してまたコンパネを置く。

翌日、つぶされたトンネルが復旧工事されてまたトンネルができていたら、それは毎日通るトンネルってこと。このトンネルに捕獲筒を仕掛けると翌日には筒に入ってる。

モグラ捕れたのに。また板の下にトンネル出来れば、まだいるってことわかるしね。

アツ、捕れたモグラ、いいヤツなんだから、殺さないで近所の腹立つライバル農家の畑にでも逃がしてあげて。もぐらのこと、もっと、詳

次回は『イノシシを食す』の話だよ〜



しく知りたい方、拙著『モグラ、おもしろ生態とかしい防ぎ方(農文協)』読んでみてください。だいな。



### 講師紹介 いのうえ まさてる 井上 雅央氏

1949年、奈良県出身。  
愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士(農学)。  
元 農研機構 近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。  
退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。  
著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハタニ』『女性がすればずんずん進む獣害対策』(いずれも農文協)など多数。

